

2010年度

科目名	漢方医療薬学 I				
担当教員	谿 忠人				
配当	薬科4			コード	44810
開期	前期	講時	木曜日4限	単位数	2
授業テーマ	【選択】現代医療の中の漢方医学・生薬・漢方処方基礎知識を修得する。				
目的と概要	漢方医療薬学Iは漢方薬と漢方医学の基礎知識を講義します。みなさんの到達目標は薬学教育モデル・コアカリキュラム(コアカリ)のC7(3)に記載されています。現代医療の中の漢方医療を概観しながら学んでください。なお到達目標の「漢方処方に配剤されている生薬の作用と成分と使用上の注意」は天然薬用資源学と連携しながら講義します。 この講義はコアカリC13「薬の効くプロセス」やC14「薬物治療」と関連します。そこで学ぶ現代医療の病態生理や西洋薬の薬理と対比して漢方医学の病態論と漢方薬(漢方処方)を総合的に理解してください。				
成績評価法	試験(3回:30点×2回、40点×1回)の合計点で評価します。				
テキスト	吉川雅之、松田秀秋(編)／「大観 漢方生薬学」／京都廣川書店				
参考書	第十五改正日本薬局方解説書の分冊(医薬品各条:生薬等)／廣川書店				
履修に当たっての注意・助言	1. 漢方医療薬学Iと天然薬用資源学の連携: 漢方医療薬学Iで講義する生薬の基原植物の属名や確認試験や作用や有効成分などは天然薬用資源学で講義しました。これらはCBT試験の出題範囲です。今回もくり返して講義しますが、第十五改正日本薬局方解説書の分冊(医薬品各条:生薬等)を各自で再確認しておいてください。 2. ノートの作成 教科書の該当頁を指示しながら講義します。講義中に該当頁をノートに記載し、講義終了後に教科書の記述事項と配布資料と講義内容をまとめてください。 3. 試験の方針と準備: 試験はシラバスの到達目標に記載した「●●を概説できる」に関連した文章問題とCBT類題を含みます。シラバスに記載した「●●を概説できる」に関して80字以内の回答を準備しておいてください。試験は一切の資料の持ち込みは不可です。 4. コアカリ対応番号と到達目標(SBOs)は「薬学部学習マニュアル」の資料を見てください。				
講義計画					
回数	授業形態	授業内容	到達目標(SBO)	コアカリ対応番号	学習領域
1	講義	漢方医学の基礎	1. 漢方医療薬学を学ぶ意義を説明できる 2. 生薬と漢方薬の歴史を概説できる 3. 中国伝統医学の三大古典を概説できる 4. 日本漢方と中医学を概説できる	独自 C7(1) 独自 独自	知識 知識 知識 知識
2	講義	漢方医学の特徴 漢方医療の診察	1. 漢方医学の特徴を概説できる 2. 漢方医療の診察(四診)を概説できる 3. 問診・聞診をNBMTと関連つけて概説できる	C7(3) 独自 独自	知識 知識 知識
3	講義	漢方医学の診断	1. 漢方医学の診断(証)を概説できる 2. 漢方医学の陰陽論を概説できる 3. 漢方医学の虚実と寒熱を概説できる	C7(3) 独自 独自	知識 知識 知識
4	講義	証と薬能と方意 生薬・処方の分類	1. 証に対応して生薬を分類できる 2. 証に対応して処方を概説できる 3. 生薬の薬能と薬理の相違を概説できる	C7(3) C7(3) 独自	知識 知識 知識
5	まとめ 講義	漢方医学の特徴	1. 漢方医学の特徴を概説できる (1-4回のまとめ)	C7(3)	知識
6	講義	虚証と補剤 実証と瀉剤	1. 証(虚実)と漢方処方を概説できる 2. 補剤に配剤される生薬を概説できる 3. 瀉剤に配剤される生薬を概説できる 4. 大黃の使用上の注意を概説できる	C7(3) 独自 独自 C7(3)	知識 知識 知識 知識
7	講義	虚証と補剤の応用 消化器症状の漢方 医療	1. 胃腸虚弱に用いる処方を概説できる 2. 補剤の現代医療における有用性を概説できる 3. 甘草の使用上の注意を概説できる	C7(3) 独自 C7(3)	知識 知識 知識

8	講義	寒証と温熱散寒剤 熱証と寒涼清熱剤	1. 証(寒熱)と漢方処方を概説できる	C7(3)	知識
			2. 温熱剤に配剤される生薬を概説できる	独自	知識
			3. 寒涼剤に配剤される生薬を概説できる	独自	知識
9	講義	病期の証の応用 感冒の漢方医療	1. 病期に対応して用いる生薬を概説できる	独自	知識
			2. 感冒に用いる漢方処方を概説できる	C7(3)	知識
			3. 葛根湯とアスピリンの類似と相違を説明できる	独自	知識
			4. 麻黄の使用上の注意を概説できる	C7(3)	知識
10	まとめ 講義	証と処方と生薬	1. 漢方処方と証の関係を概説できる	C7(3)	知識
			2. 漢方処方の適応症と生薬を説明できる	C7(3)	知識
			3. 漢方処方の使用上の注意を概説できる (6-9回のまとめ)	C7(3)	知識
11	講義	気証と気剤と生薬	1. 気血水の病態を概説できる	C7(3)	知識
			2. 証(気虚・気滞)と漢方処方を概説できる	C7(3)	知識
			3. 補気剤に配剤される生薬を概説できる	独自	知識
			4. 理気剤に配剤される生薬を概説できる	独自	知識
12	講義	血証と血剤と生薬 更年期の漢方医療	1. 証(血虚・血)と漢方処方を概説できる	C7(3)	知識
			2. 補血剤に配剤される生薬を概説できる	独自	知識
			3. 活血剤に配剤される生薬を概説できる	独自	知識
			4. 更年期障害に用いる処方を概説できる	C7(3)	知識
13	講義	水証と水剤と生薬	1. 証(津液不足・水滞)と処方を概説できる	C7(3)	知識
			2. 補陰剤に配剤される生薬を概説できる	独自	知識
			3. 利水・化痰剤に配剤される生薬を概説できる	独自	知識
14	講義	漢方医療と民間療法 と現代医療	1. 漢方医療と民間療法の相違を概説できる	C7(3)	知識
			2. 漢方薬と西洋薬の利用法の相違を概説できる	C7(3)	知識
			3. 現代医療を概括して漢方医療の特徴を概説できる	C7(3)	知識
15	総括 講義	漢方薬と漢方医学 の基礎(総括)	1. 現代医療の中の漢方医学と生薬と漢方処方 (1-14回の総括)	C7(3)	知識
授業方法					
一般 目標	学習方法	場所	教員数 (補助者数)	教科書以外の教材など	時間(分)
C7(1) C7(3)	講義 講義	講義室	1(1)	配付資料	90分×12回 試験と解説 90分×3回